

名刺小説 ～怪談集

hibachi110

おともだち

おともだち ひ蜂

幼い我が子に友達が出来たらしい。人見知り激しく、ひとり遊びが好きな子なのだ。ショウちゃんお友達って、おなまえは？ケンちゃんだよ。どこの子？わかんない。あ、ケンちゃんだ。ねえ、遊ぼう。えっ、どこどこ？パパの目の前にいるじゃないか。

終

トイレの花江

トイレの花江 ひ蜂

某学園のトイレにとりつく幽霊、花江は、几帳面！どんなところが几帳面？ロールペーパーの先端を三角折り！やらない人間二つ折り！

終

ホウイチの話

ホウイチの話 ひ蜂

ホウイチよ、お主、亡霊にトリツカレタようじゃな！お、和尚様、どうかお助けを！わかっておる。お主の全身にお経を書いてしんぜよう。そうすれば亡霊からお主は見えぬはず…。和尚はお経を唱えながらホウイチの身体にくまなく写経していく。おっと、耳を忘れるとこじゃった！その夜…ホウイチ、何処じゃ、ホウイチ。そして、落ち武者の亡霊を見た！あんたところにおちんちんが落ちておるぞ！！

終

シルバーシート

シルバーシート ひ蜂

満員電車の2両目でシルバーシートに座っていた俺。その前に、老人が立った。あのう、ゆずってもらえませんかのう？うざいと思ったが、周囲の視線を感じ、渋々、いいっすよ！と席を立つ。次の瞬間、体中の力が抜け、再び座席に座り込む。お若いの、ありがとう、若さを…。

終